

# ちょっと薬に立つお話

特集

敬老の日を前に  
考える

店頭でご確認ください!

## ピクトグラム※で表す 薬局での健康サポート内容

それぞれの薬局で実施している健康サポートの内容を、ひと目でわかるよう「ピクトグラム」で店頭に掲示しています。薬局を選ぶ参考にしてください。



お薬手帳を使っ  
てお薬の一元管理を  
推進しています



ジェネリック医薬  
品を積極的に扱っ  
ています



プライバシーを保護す  
るべく心がけていま  
す



一般用医薬品、衛  
生材料・介護用品  
等を揃えています



使用済みの注射針  
を回収しています



適切な服薬指導、  
残薬の回収をして  
います



在宅でのお薬など  
の管理をサポート  
しています



禁煙サポート指  
導をしています

※ピクトグラムとは…  
一般に「絵文字」「絵単語」などと呼ばれ、伝えたい情報や注意を誰にでもわかりやすく示すために、単純な色と図でデザインされる視覚記号。1964年の東京オリンピック開催時に、外国人への情報伝達のために開発されたのが始まりと  
言われています。



こんなふうに店頭  
に貼り出されています

## はい、お答えします!

Q. 蚊取り線香が「渦」を巻いているのはなぜ  
ですか? (上田市材木町 8歳男子/代理・母)

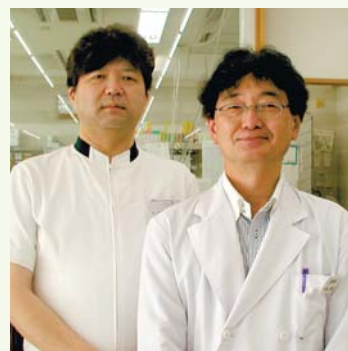
A. 全長は約75cmあるそうです。金鳥の蚊取り線香  
は、開発当時「棒」状でした。開発者の奥様が、「渦  
巻き状にしたら長時間使えるのでは…」と提案したこ  
とがきっかけで渦巻き状になったそうです。ちなみに、除虫  
菊という花に含まれる「ピレトリン」を元に開発された「ピ  
レスロイド」という成分が虫よけに効果があるそうです。

このコーナーでは毎月、読者の方からの質問に  
薬剤師がお答えします。お薬に対する  
素朴な疑問、質問、なんでもお寄せください。

〒386-0012 上田市中央 6-3-41  
週刊うえだ「はい、お答えします!」係  
メール weekly-ueda@po3.ueda.ne.jp  
FAX 0268-22-6201

## 高齢者のための かかりつけ薬剤師・薬局の 「使い方」

もうすぐ敬老の日。ご高齢の方、またご高齢  
の方を家族に持つ皆さんのお役に立てるよ  
うな「かかりつけ薬剤師・薬局の使い方」を、  
薬剤師の平林篤典さん、上原辰男さんに聞  
きました。



### ご高齢の方のために

体が不自由になると、医療機関を往復するのも大変  
です。処方せんをもらっても、薬局まで取りに来られ  
ない患者さんもいらっしゃいます。私たちは場合によっ  
ては、ご自宅までお届けに行くこともあります。

薬をお出しする際には、飲み間違い  
がないよう1回分ずつ包んで、飲  
む日時を印字するなどの工夫をし  
ています。家庭で飲み忘れを防止す  
るには「お薬カレンダー」がよく使  
われます。持ち運びできるキャリ  
ーケースも便利です。



▲お薬カレンダー

▲キャリーケース

### かかりつけ薬剤師・薬局またはおくすり手帳を活用して!

高齢者は多種類のお薬を服用するケースが多いものです。  
かかっている診療科や医療機関が違えば、重複するお薬も出で  
きます。できれば薬局をひとつ「かかりつけ」に決めていただければいいのですが、  
なかなかそうもいかない場合、必ず一冊の「おくすり手帳」で管理を一本化してほ  
しいです。

他にどんな薬を飲んでいるか? おくすり手帳で記録していれば、一目瞭然で  
す。名前が違って、作用が似たような薬はたくさんあります。例えば「痛み止  
め」は、整形外科や歯科などさまざまな診療科で処方されます。「薬の重複」は、お  
くすり手帳を上手に使えば、防ぐことができます。

「飲み合わせ」が悪い場合もあります。例えば、前立腺の病気の人は、かぜ薬など  
との飲み合わせに注意が必要です。おくすり手帳を持参し、かかりつけ薬剤師・薬  
局に相談してください。必要に応じて、薬剤師から医師に確認することもあります。

### 残薬について、またお薬のことは何でも相談を!

「前の薬が残ってるんだけど使えるかしら?」と聞かれることがあります。薬は、決  
められた量を決められた日数で飲み切る・使い切るのが理想です。飲み忘れたり  
、いつも余るようだったら、ぜひ相談してほしい  
ですね。写真のように、何年も溜め込んでしまった  
という驚きの例もあります。

高齢になると、飲み込みにくい「嚥下(えんげ)  
障害」が出るケースも増えてきます。薬は一般的に  
はお水で飲みますが、薬局では唾液で溶ける薬や、  
のどごしをよくするゼリーを紹介したりもします。

離れて暮らしている場合でも、家族が飲んで  
いる様子、飲んでいない様子をしっかりと把握してあ  
げてください。そして薬の飲み忘れが増えてきた時などは、ぜひ、かかりつけ薬剤  
師・薬局にご相談ください。

また、週刊誌で読んで気になったこと、薬のことは、なんでもかかりつけ薬剤師・  
薬局に聞いてください。わからないことは、メーカーや医療機関などに問い合わせ  
たりして、お応えするよう努力します。



▲数年分たった残薬の例(一人分)